



info! ながさき

Information of Nagasaki Prefectural Education Center

発行日 平成22年12月1日(水)

学力をつけることの意味と重み

12月を迎え、各学校ではこの一年の成果や課題の整理と、新年度に向けた準備や計画を策定されていることと思います。教育センターでも、今年度の事業評価を行い、次年度の計画に着手しているところです。

とりわけ、子どもたちのより確かな学力の定着と向上を目指す「教えて考えさせる授業」については、出前講座のご依頼も多く、着実な実践の広がりを見せてきており、次年度もさらに推進を図っていきたく考えています。本第3号にも「特集」を組んでいますのでご覧ください。

また、当センターWebページに学校支援サイト「玖島の杜」を新たに立ち上げ「各教科の部屋」や「教科以外の部屋」にアクセスできるようにしていますので、「活用教材」や「基礎・基本チャレンジ問題」とともにぜひご活用ください。

「学力をつけることは学校教育の使命」

副所長兼総務企画部長 篠崎 信彦

であり、確かな学力の育成は「生きる力」の源になります。読む、書く、計算する、話す、聞く、考える、判断する、表現するなどの技能とそれを支える心や態度が人とかかわる力のもととなり、生業を立てる力のもととなり、生きていく力の源となるのです。私たち教職にある者は、そのことの意味と重みをしっかりと自覚して、すべての子どもたちに確かな学力を育まなければなりません。

そのために教育センターは、これからもなお一層、所員の研鑽に努め、質の高い研修講座を追求し、各種事業を展開してまいります。各学校におかれましては、新年度計画に当センターの活用を積極的に組み込んでいただき、さらなる学力向上を図っていただきますようお願いいたします。



目次

副所長あいさつ	1
企画課から	1
義務教育研修課から	2
高校教育研修課から	2
特別支援教育研修課から	3
教育相談室から	3
ICT活用指導力の向上を目指して ウィンターセミナーのご案内	4

◆ 第3号では、「教えて考えさせる授業」を特集しています。

企画課 ～ 本年度の調査研究の取組状況 ～

● 調査・研究の内容は？

「今日的教育課題への対応」と「教科教育の充実」を2本の柱とし、調査研究を進めています。今年度は特に、新学習指導要領改訂等に対応した取組を重視し、それぞれ調査研究を推進しているところです。

【今日的教育課題に対応した取組】

- 不登校の理解とその対応
- 高等学校における特別支援教育の進め方
- 授業改善の推進
 - ・教えて考えさせる授業
 - ・効果的な電子黒板の活用
 - ・小学校外国語活動における電子黒板の活用

【教科教育の充実に資する取組】

- 社会科(教材開発)
- 英語科(4技能の統一的指導)
- 音楽科(展開と評価)
- 理科(動画コンテンツの作成)
- 技術・家庭科(学習指導の在り方)
- 地理歴史科(世界史における学力の育成)
- 各教科の活用問題作成



● ホームページで見られるの？



長崎県教育センターのホームページにある「調査研究」コーナーで、これまで行なわれた調査研究の成果を見ることができます。「玖島の杜」にも一部アップしています。プリントアウトするなどしてぜひご活用ください。

ご不明な点は、お気軽にお尋ねください。電話0957-53-1186(企画課直通)

義務教育研修課 ～ 中学校理科における「教えて考えさせる授業」の実践 ～

10月に県内の公立中学校で「浮力」を題材とした「教えて考えさせる授業」についての出前講座を行いました。講座の内容は、

- ① 所員による実践授業
- ② 理科における「教えて考えさせる授業」についての講義
- ③ 研究協議

の3つの柱です。今回は特に、実践授業の内容についてお伝えします。

● 所員による実践授業

浮力は、水中にある物体にはたらく上向きの力で、その大きさは水中部分の体積で決まります。

今回の実践授業では、実感を伴った確実な理解をねらいとして、実験で「理解の確認」を行いました。具体的な授業内容は以下のとおりです。

予習（先行学習）

あらかじめ教科書の浮力の定義を読み、分からないところには下線を引いてくるように指示しました。

1 教える

予習内容を確認し、子どもたちの理解度を把握しました。

出前講座「教えて考えさせる授業」生徒の感想（抜粋）

- ・予習した時には分からなかったことが、実験などを通してどんどん分かっていくのが楽しかったです。
- ・まとめを最初にするので、授業が分かりやすかったです。
- ・浮力のことがすごくよく分かりました。物がなぜ浮かぶのかもっと知りたいと思いました。



2 理解確認

予習した内容（物体は水から上向きの力を受けること）を、教師が演示実験を行いながら分かりやすく説明しました。言葉として理解した内容を、具体的な現象をおして実感することで本物の知識になります。子どもたちは浮力について自分の言葉で説明し合うことができました。

3 理解深化

浮力の大きさは何と関係しているのかを生徒実験で追究させました。その際「理解の確認」で学習した知識や実験技能を活用できるように、以下の点に配慮しました。

- ・実験方法は、演示実験と大きく変わらないこと。
- ・浮力に関する知識が、実験の見通しや考察に活用できること。

4 定着診断

浮力のみまとめと定着の診断を行いました。定着診断では浮力についてすべての子どもが理解できていました。

最後に、さらに調べたいことを質問したところ、船が浮くしくみなど、日常生活と結びついた疑問や探究心が生まれていました。

高校教育研修課 ～ 教科会を学校組織の基軸に！ ～

● 教科会は学校組織の基軸である

通常、学校には、学年・校務分掌・教科などの軸が縦横に張られ連携を保ちながら、生徒たちの成長を支えています。

よく見かける学校組織の在り方として、横軸に学年、縦軸に校務分掌、その間に教科の軸が見え隠れするマトリックスの構造があります。しかし、学校を支える基軸としての教科会の役割にもっと目を向けてもよいのではないのでしょうか。生徒たちにとって、学校生活の大部分は授業です。教師は授業を中心に据え、生徒たちと日々向き合っています。そのような授業を支える教科会は、学校組織の基軸を担っていると言ってよいはずです。

教科会は、各教科の専門家が互いに批評しながら、力を高め合える集団です。若い教師や経験を積み重ねてきた教師たちが、教科という同じ土俵に立って意見を交わし、生徒たちの成長に深くかかわりつつ、教師自身も成長していく場が教科会です。

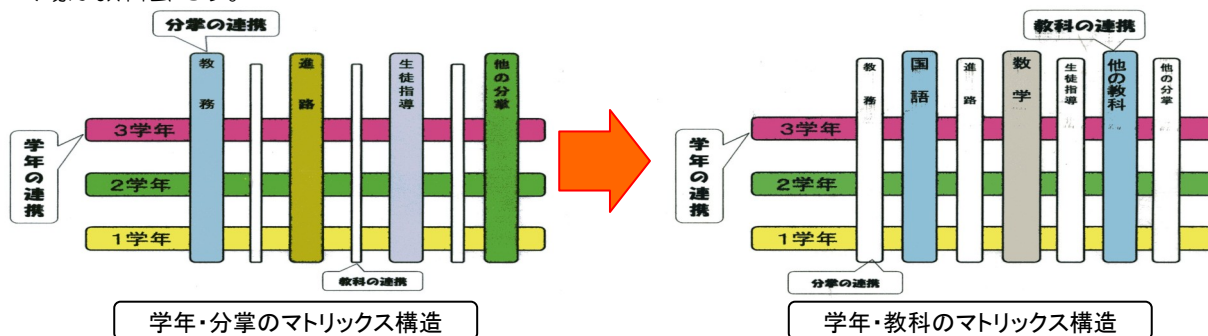
● 教科会充実のための着手点

学校組織の基軸として機能するために、教科会でまず取り組むべきポイントをあげてみます。

- 学校全体として、体系的・計画的な指導体制を作る。
- 学力や評価について十分に論議し、生徒の学力を多角的に分析・共有する。
- 生徒の実態に応じた教材や指導方法を選定・開発する。
- 日常的に授業を公開し、授業研究を通して課題の焦点化を行い、授業改善につなげる。
- 各種考査やテストの問題を、組織として作成する。

● 教育センターの取組

教育センターでは、「高校教科指導リーダー育成研修講座」を開講し、授業研究の在り方や教科会の進め方についての研修を行い、教科会の活性化を図っています。その成果についてはまとまり次第公表します。



特別支援教育研修課 ～ 事例に対する指導・支援の方法を考えるために有効な協議方法の紹介 ～

7～8月に県内7会場で、「特別支援教育スキルアップ研修会」を開催しました。本研修会の研修内容の一つである協議・演習「事例に対する方策を考える」では、短時間で有効なアイデアを発想することができる「マトリックス法」を用いて協議しました。内容の一部を紹介します。

● マトリックス法の実施方法

- (1) 班を編制する（4～8人程度）
- (2) 事例についての解決方法のアイデアを、各自の付箋に書き出す（5分程度）
- (3) アイデアを書いた付箋を図1のマトリックスの項目にそって整理する

図1のマトリックスの中で、「A」の欄に挙げたアイデアが、「重要性・緊急性が大」かつ「解決の可能性・取り組みやすさが易」のものとなる。

		重要性・緊急性		
		大	中	小
解決の可能性 取り組みやすさ	易	A	B	C
	中	D	E	F
	難	G	H	I

図1 マトリックスシート

● 実際の演習において図1のマトリックスの中で「A」の欄に挙げたアイデアの例

- 事例「授業中、落ち着きがなく席を立ってしまう子どもへの指導・支援」
 - ・動きのある授業を仕組む。
 - ・約束の時間を決め、守れたときシールなどはる。
- 事例「友だちに対して、頻繁に叩いたり、ちょっかいを出したりする子どもへの指導・支援」
 - ・「叩いてはいけない」ことをあらかじめ約束する。約束を守ろうとした場面をとらえて、ほめる。
 - ・叩きなくなったときは「先生に言いに来て」と伝え叩く前にその気持ちを受け止める。
 - ・なぜ叩いたのかを聞き、相手の気持ちや、別の行動に置き換えることができないかを一緒に考える。

● 参加者の感想

- グループで意見を出し合うことが、いかに大切であるかを再認識することができた。
- 限られた時間のなかでどう意見をまとめていくかとても勉強になった。校内での事例検討に応用できると思った。



教育相談室 ～ 教育相談のワンポイントアドバイス ～

● フリーセラピー

悩みや問題を抱えている児童生徒や保護者を指導・援助していくときに、「原因がはっきりしないので対応が難しい。」「原因は把握できたけれど、取り除くことは無理なので対応できない。」

など、大きな壁にぶつかることがあります。

そのようなときは、「問題」や「原因」という過去のことに焦点を当てずに解決を図っていく、『ブリーフセラピー』の考え方を活用できます。

ブリーフセラピーとは、通常「短期療法」と訳されまです。精神分析療法が治療に長期間を要することから、比較的短期間で確実な効果を上げることができるよう工夫された精神療法の総称です。

● スケーリング・クエスチョン

今回は、ブリーフセラピーの技法のひとつである『スケーリング・クエスチョン』を紹介します。

スケーリング・クエスチョンとは、差異を見つけていく質問です。この質問をすると、「調子が悪い。」とか「気分が悪い。」という漠然とした抽象的な話を具体的な話を持っていくことができます。

(例) 「一番いい状態を10点、最悪の状態を0点とすると今は何点ですか？」（100点満点でも可）

（3点ぐらいと答えたら）「最悪の0点じゃなくて、3点もあるのは、どういうことがあるから？」

（理由を答えたら）「今の3点を4点にあげるためにはどんなことをすればいいのかな？」

（3点が4点になったときは）「その1点分は何がちがうのかな？」

このように、小さな差異(違い)に注目し、スモールステップで解決の方向に向かって話を進めていきます。

1点、2点を上げるために本人がどのようなことをしていけばよいのか、周囲がどのような援助をしていけばよいのかなど、具体的な手立てを探っていく技法ですので、教育相談や諸活動における振り返りなどでご活用ください。

【参考文献】

「解決志向ブリーフセラピー」黒沢幸子 森俊夫
「先生のためのやさしいブリーフセラピー」森俊夫

① 学校での生活	1-2-3-4-5-6-7-8-9-10
② 友人との関係	1-2-3-4-5-6-7-8-9-10
③ 自分の性格	1-2-3-4-5-6-7-8-9-10
④ 自分の身体面	1-2-3-4-5-6-7-8-9-10
⑤ 自分の学習面	1-2-3-4-5-6-7-8-9-10
⑥ 先生との関係	1-2-3-4-5-6-7-8-9-10
⑦ 家庭での生活	1-2-3-4-5-6-7-8-9-10
⑧ 部活動での取組	1-2-3-4-5-6-7-8-9-10
⑨ 他学年との関係(先輩, 後輩)	1-2-3-4-5-6-7-8-9-10

(参考例) 定期的な個人面談の事前アンケートに用いた例

ICT活用指導力の向上を目指しましょう!!

● 「教員のICT活用指導力のチェックリスト」を 利用してみませんか!!

文部科学省では、毎年、小・中・高等学校等の教員を対象に「教員のICT活用指導力のチェックリスト」（5つのカテゴリーで18のチェック項目）によるICT活用状況の調査を実施し、その調査結果を公表しています。（右図：例-小学校版）

ワープロソフトや表計算ソフトによる文書作成、インターネットを利用した情報収集、教材提示装置を用いた児童生徒への資料提示など、日ごろのICT活用の状況を振り返り、チェックリストの項目に○を付けていくと、自分のICT活用指導力が明らかになってきます。チェックをすることで、授業や校務処理の状況を見つめ直すきっかけとし、その改善に生かしてみたいかがでしょうか。

もっと詳しく自己診断をしたい方は、ぜひ一度「文部科学省委託事業-先導的教育情報化推進プログラム-ICT活用指導力向上研修」Webページへアクセスし、ICT活用指導力としてどのような力が求められているのかを確認してみてください。



「教員のICT活用指導力のチェックリスト」(小学校版)	
A 教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力	
A1	教育効果を高めるには、どの場面にもどのようにしてコンピュータやインターネットなどを利用すればよいかを計画する。
A2	授業で使う教材や資料などを集めるために、インターネットやCD-ROMなどを活用する。
A3	授業に必要なプリントや提示資料を作成するために、ワープロソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用する。
A4	評価を充実させるために、コンピュータやデジタルカメラなどを活用して児童の作品・学習状況・成績などを管理し集計する。
B 授業中にICTを活用して指導する能力	
B1	学習に対する児童の興味・関心を高めるために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。
B2	児童一人一人に課題を明確につかませるために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。
B3	わかりやすく説明したり、児童の思考や理解を深めたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。
B4	学習内容をまとめる際に児童の知識の定着を図るために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などをわかりやすく提示する。
C 児童のICT活用を指導する能力	
C1	児童がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり選択したりできるように指導する。
C2	児童が自分の考えをワープロソフトで文章にまとめたり、調べたことを表計算ソフトで表や図などにまとめたりすることを指導する。
C3	児童がコンピュータやプレゼンテーションソフトなどを活用して、わかりやすく発表したり表現したりできるように指導する。
C4	児童が学習用ソフトやインターネットなどを活用して、繰り返し学習したり練習したりして、知識の定着や技能の習熟を図るように指導する。
D 情報モラルなどを指導する能力	
D1	児童が発信する情報や情報社会での行動に責任を持ち、相手のことを考えた情報のやりとりができるように指導する。
D2	児童が情報社会の一員としてルールやマナーを守って、情報を集めたり発信したりできるように指導する。
D3	児童がインターネットなどを利用する際に、情報の正しさや安全性などを理解し、健康面に気を付けて活用できるように指導する。
D4	児童がパスワードや他の情報の大切さなど、情報セキュリティの基本的な知識を身につけることができるように指導する。
E 校務にICTを活用する能力	
E1	校務分掌や学級経営に必要な情報をインターネットなどで集めて、ワープロソフトや表計算ソフトなどを活用して文書や資料などを作成する。
E2	教員間、保護者・地域の連携協力を密にするため、インターネットや校内ネットワークなどを活用して、必要な情報の交換・共有を図る。

● ICT活用指導力が向上できるように、一緒に学びませんか!!



「活用したいんだけど、情報機器の操作が苦手。授業でうまく活用する自信がない。」

そのような先生方のために、ICT活用に関する研修講座や校内研修として活用できる出前講座があります。

特に出前講座では、入門コースとして、各学校に設置してあるICT機器を操作しながらの演習を中心に行いますので大変好評を得ております。ぜひ出前講座をご活用ください。

まずはお電話を!! 0957-53-1186 (企画課)

更なるスキルアップを! ウィンターセミナー開催

教科領域等におけるスキルや指導力等を身に付けるための、体験的、実践的な研修です。半日もしくは1日の参加しやすい日程です。

● 講座一覧表

番号	実施日	実施時間	講座名	対象
1	12/27 (月)	13:00~16:30	「充実した理科自由研究」研究講座	中高特 5名
2	1/5 (水)	9:30~15:30	子どもの学力を高める問題づくり実践講座 ~確実な定着をめざした授業づくり~	小 15名
3	1/5 (水)	13:00~16:30	はじめてのピアノ伴奏研修講座(入門編)	小中特 3名
4	1/6 (木)	9:30~12:00	Wiiリモコンで簡易電子黒板を実現しよう ~電子ペンの製作実習~	小中高特 15名
5	1/6 (木)	9:30~15:30	古典に親しもう ~伝統的な言語文化にふれる小学校国語科の授業~	小 12名
6	1/6 (木)	13:00~16:00	言葉と写真の出合い	小中高特 20名
7	1/6 (木)	13:00~16:00	デジタルカメラによる映像教材の制作	小中高特 20名
8	1/6 (木)	13:00~16:00	教師学 ~先生も子どももハッピーになるコミュニケーション~	小中高特 制限なし

● 申込み

校長・副校長・教頭による電話でのお申込みです。それぞれの申込み先はWeb情報315号でご確認ください。先着順に受け付け、定員になり次第締め切ります。申込み期間は11月26日(金)~12月10日(金)です。

詳しくは教育センターWebページでご確認ください。

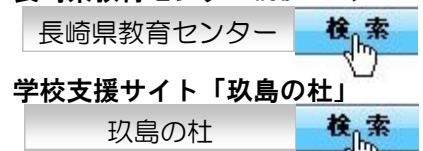
長崎県教育センター

センター通信 第3号

〒856-0834
長崎県大村市玖島1丁目24-2

- 総務課
電話：0957(53)1131
FAX：0957(54)0578
- 企画課
電話：0957(53)1186
FAX：0957(53)1190
- 義務教育研修課
電話：0957(53)1132
FAX：0957(54)6496
- 高校教育研修課
電話：0957(54)6341
FAX：0957(54)6496
- 特別支援教育研修課
電話：0957(53)1130
FAX：0957(52)9242
- 教育相談室
電話：0957(52)9241
FAX：0957(52)9242

長崎県教育センターWebページ



実践に向けた研修を提供しています

「**教えて考えさせる授業**」の研修を行っています。

集合研修では、講義やグループでの指導案づくり・模擬授業等の研修を行っています。研修講座に参加することで、「教えて考えさせる授業」を自信を持って実践できます。



集合研修での模擬授業

・「教えて考えさせる授業」と「問題解決的な学習」を単元の中でどう位置付けていくかが大切だと思った。そのためにも教材研究がもっとも重要だと思う。教えることを自分の中で明確にし、子どもが理解できる授業を目指したい。

(中学校教員)

・新しい授業スタイルや授業のポイントを伝えるための教材等の工夫など参考になることがたくさんあった。特別支援学校においても教科指導の大切さをあらためて考える機会となった。

(特別支援学校教員)

出前講座では、各学校や各市町の教科部会等の依頼を受けて現地へ出向き、研修を行っています。内容は、講義・研究授業・演習等様々です。

本年度は31会場で「教えて考えさせる授業」の出前講座を実施しました。

(10月末現在)

- ・「教えて考えさせる授業」の流れが参考になった。
- ・(自分のふだんの授業が)教えた後に、理解確認をしないままの授業になっていることに気付かされた。

(高等学校教員)

- ・まず、しっかり教え、目指すゴールを明確にして、授業を組み立てなければならない。そして、理解の深化の部分の教材研究の大切さがよくわかった。
- ・「教えて考えさせる授業」をまず実践してみることが必要だと思った。

(小学校教員)



出前講座での模擬授業



出前講座での研究授業

研修の参考となる文献をご紹介します

- 『教えて考えさせる授業 小学校 学力向上と理解深化をめざす指導プラン』
市川伸一・鎗木良夫 編著 図書文化社
- 『教育の羅針盤1「教えて考えさせる授業」を創る 基礎基本の定着・深化・活用を促す「習得型」授業設計』
市川伸一 著 図書文化社
- 『新学習指導要領対応 新版 教えて考えさせる授業 小学校』
市川伸一・鎗木良夫 編著 図書文化社
- 『教えて考えさせる理科 小学校 基礎基本の定着・深化をはかる習得型授業の展開』
鎗木良夫 編 図書文化社

学力の定着を目指す新学習 ～「教えて考えさせ」

求められている学力の3要素（学校教育法30条2）

基礎的な知識及び技能

思考力、判断力、表現力

主体的に学習に取り組む態度

具体化

新学習指導要領改訂のポイント

- | | |
|----------------------------|---------------------|
| (1) 改正教育基本法等を踏まえた改訂 | (2) 「生きる力」という理念の共有 |
| (3) 基礎的・基本的な知識・技能の習得 | (4) 思考力・判断力・表現力等の育成 |
| (5) 確かな学力を確立するために必要な時間の確保 | (6) 学習意欲の向上や学習習慣の確立 |
| (7) 豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実 | |

これまでの授業改善の取組

	児童生徒	教師
成果	問題（課題）発見力や自力で解決する力が身に付いてきている。	問題解決的な授業展開が定着し校内研修等での真摯な取組が見受けられる。
課題	知識・技能の定着が不十分でそれらを活用して解決する力がもう一歩である。	教えることを躊躇してしまう傾向にある。学力の定着への手立てが確立できていない。

「生きる力」の素地となる学力を、さらに確実に育みたい。

「授業展開」の引き出しを増やしたい。

知識・技能をしっかりと習得させたい。

課題の要因として

- ・問題把握に多くの時間を費やしてしまう
- ・深まりのない学習活動になりがちである
- ・定着のためのスキル、活用・発展問題が不十分である

活用する力を身に付けさせたい。

そこで…

「教えて考えさせる授業」の提唱

リーフレット（平成20年10月）

- 学力を向上・定着させるための授業
- 「習得」「活用」重視の授業を具現化
- 問題解決的な学習を補完するもの



公開授業研修会報告（平成21年2月）

詳しくはWebページを今すぐクリック！



「教えて考えさせる授業」のページや各教科の部屋に、指導案や出前講座などの情報が満載！

学習指導要領に対応した授業 「授業」について ～

子どもに**考えさせるために**教師が必要な知識や技能を**しっかりと教え**、子どもたちの**理解を確認**し、獲得した知識や技能を発展的な問題等に**活用させる**ことで、**習得・定着を目指す授業**です。

この指導過程で行う教え合いや説明活動は、子どもたちの**言語活動**を活性化させ、**コミュニケーション力**の向上にもつながります。小・中学校だけでなく、高等学校や特別支援学校においても、**授業改善**の視点としてきわめて有効です。



「教えて考えさせる授業」の指導過程と内容

「教えて考えさせる授業」Q&A

Q1：予習は、どういう意図で取り組ませるのですか？

A：どこがわからないのかを子ども自身に把握させたり、「教える」過程の理解を促したりするために取り組ませます。ただし、予習の内容や程度については、発達段階に合わせて取り組ませてください。

Q2：いつも「教えて考えさせる授業」を進めるのですか？

A：いいえ。児童生徒の実態や、単元・本時のねらいに応じて取り入れてください。教えるべきところは教えて、考えさせるべきところをしっかりと考えさせましょう。

Q3：これまでの中学校の授業とどこが違うのですか？

A：教えるべきところを教える点では同じです。ただ、「教えて考えさせる授業」では、教えたことをもとに自力解決や共同解決をさせることで、思考力等を育てることと、理解の確認や定着の診断を確実に行うことが大切です。

Q4：教え込みの授業になるのではないのでしょうか？

A：いいえ。機械的な教え込みにならないように、意味理解を伴うことが大切です。さらに、理解の深化では、しっかりと考えさせることが大切です。

Q5：1単位時間で4つの過程を必ず位置付けなくてははいませんか？

A：いいえ。本時のねらい等によって、1単位時間であったり、2時間で、もしくは単元全体で4過程を位置付けたりすることもあります。

Q6：算数・数学以外の教科においても取り組めるのですか？

A：すべての教科で取り組むことができます。最近は国語や理科での実践も増えていきます。中学校では教科の壁をこえた校内研修の柱として取り組めます。ぜひ、「玖島の杜」へアクセスしてください。

さらに、疑問を解決したり、
指導を充実させたりするために、ご活用ください

Web「玖島の杜」 サイト

出前講座や指導案等を
随時更新しています

調査研究

各種データや実践の結果
を分析し発信します

集合研修

各教科の講義や演習で
必ず位置付けています

出前講座

依頼者のねらいに応じ
て出かけています

「教えて考えさせる授業」
リーフレット第2弾を
今年度末に発行します！